

(素案)

第六次須坂市総合計画・前期基本計画

須坂みらいチャレンジ 2030

しあわせをみんなでつくる

共創の活力あふれるまち 須坂



構成案

第1部 総合計画の概要.....	1
1. 計画の位置づけ.....	1
2. 計画の期間と構成.....	1
3. 計画の推進体制と進行管理.....	1
第2部 基本構想.....	2
1. 須坂市の概要.....	2
2. 2030年への展望～本市を取り巻く環境や未来に起こりうる変化のシナリオ.....	7
3. 将来像.....	9
4. 将来像の実現に向けたまちづくりの基本的な視点.....	11
5. 重点戦略（地方創生施策）.....	14
6. 基本目標（分野別総合政策）.....	15
7. 将来目標人口.....	13
8. 土地利用構想.....	16
第3部 前期基本計画.....	17
1. 体系図.....	17
2. 施策の構成と見方.....	17
3. 施策の展開.....	17

第1部 総合計画の概要

1. 計画の位置づけ

- これからの10年の、本格的な人口減少時代、価値観や技術変化の激しい時代における新たな未来づくりの羅針盤となる計画であること。それは必然的に新しいことにチャレンジしていく計画、また民間・市民との共創で取り組むべきものとなること。
- それを踏まえ、市民へのメッセージ性を持たせて第六次須坂市総合計画の愛称を「須坂みらいチャレンジ2030」とすること。
- こうした時代に求められる総合計画のあり方が「総花的な計画⇒戦略的な計画」に変化していること。そのため、第六次総合計画は「選択と集中」、「バックキャストイング」、「シナリオプランニング」等これまでと異なる手法を取り入れた総合計画づくりとしたこと。
- 引き続き、人口減少抑制策、地方創生策が重点的に求められるため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（健康長寿発信都市「須坂 JAPAN」）（以下、「総合戦略」。）を第六次総合計画と統合すること。

総合戦略の一体化について

- ◆パターン1（重点戦略に位置づける）：現在の構成（これが最も多い）
⇒現時点ではこちらのパターンを想定している
- ◆パターン2（別添的に計画の後ろに独立してつける）：松本市
- ◆パターン3（基本計画と一体化させる）：高山市、石巻市（現在策定中）

※第六次総合計画と分野別計画の関係（図式化したものを挿入予定）

2. 計画の期間と構成

- 基本構想（将来像・基本目標）：10年（2021年～2030年）
- 基本計画（基本施策・施策）：5年（前期基本計画 2021年～2025年／後期基本計画 2026年～2030年）／総合戦略部分（地方創生施策）：5年（2021年～2025年）
- 実施計画（事務事業）：3年（1年ごとに評価・見直し）

※上記を図式化したものを挿入予定

3. 計画の推進体制と進行管理

※今後の検討事項

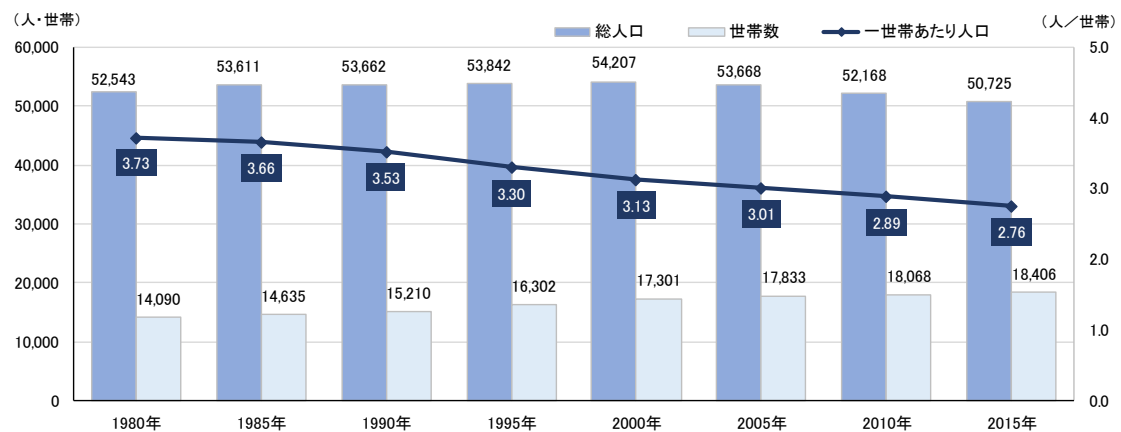
第2部 基本構想

1. 須坂市の概要

① 地勢と沿革

② 人口と世帯の推移

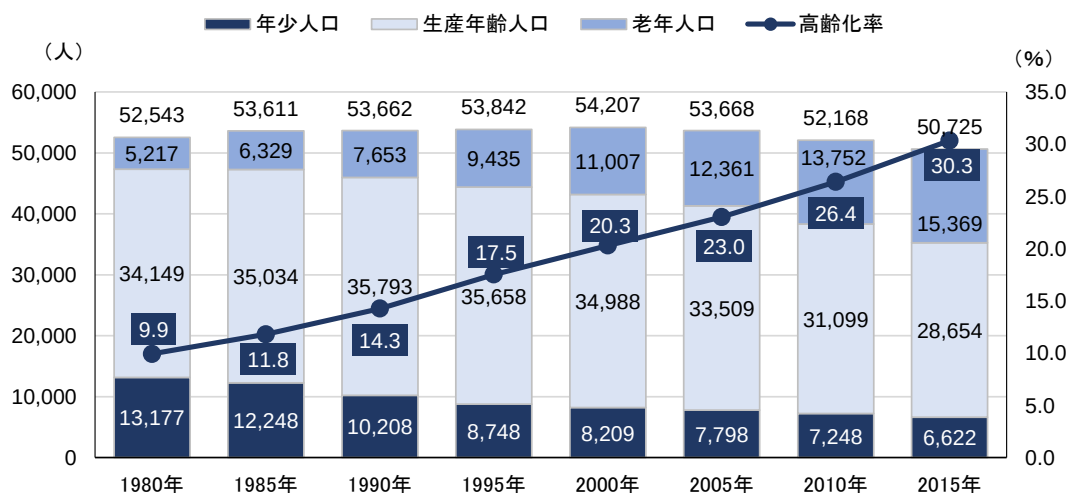
須坂市の総人口は2000年にピークを迎え、以後は減少局面に入っています。核家族化や単身世帯化が進み、世帯数は増加しているものの一世帯あたりの人口は減少しつづけています。



出典：総務省「国勢調査」

③ 少子高齢化の状況

年少人口（0歳～15歳未満）、生産年齢人口（15歳～65歳未満）は減少を続ける一方、老年人口（65歳以上）は増加しています。高齢化率は2015年に30%を超えました。

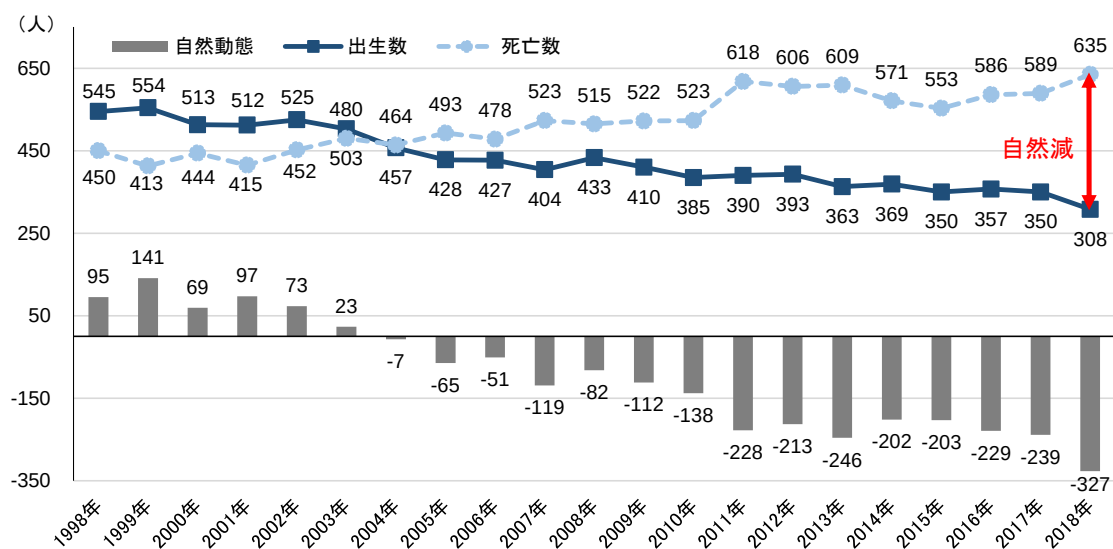


出典：総務省「国勢調査」

④ 自然動態

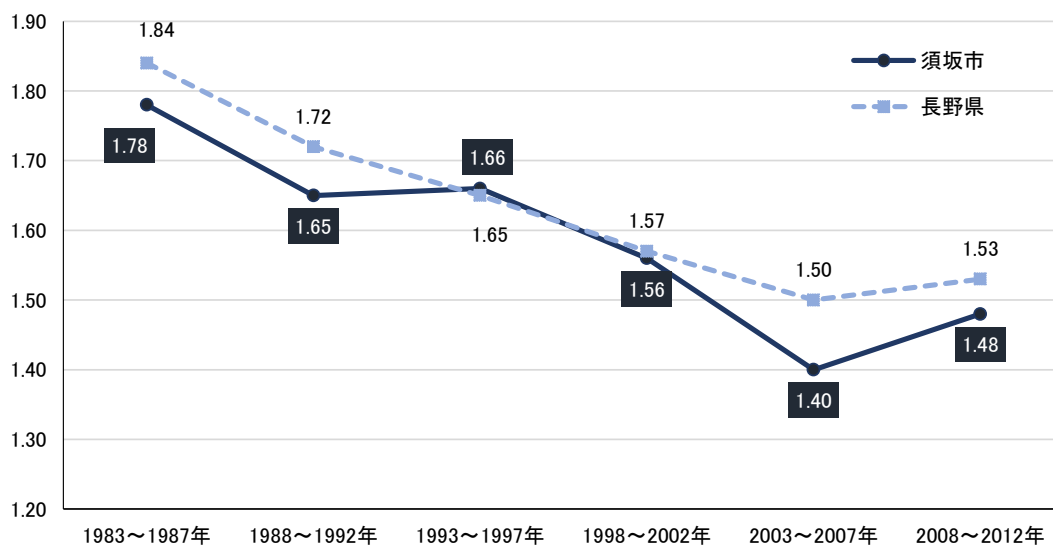
2004 年を境に、出生数を死亡数が上回り、自然減の状況が続いています。合計特殊出生率は年々低下し、長野県全体を下回る水準となっています。

自然動態の推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

合計特殊出生率の推移

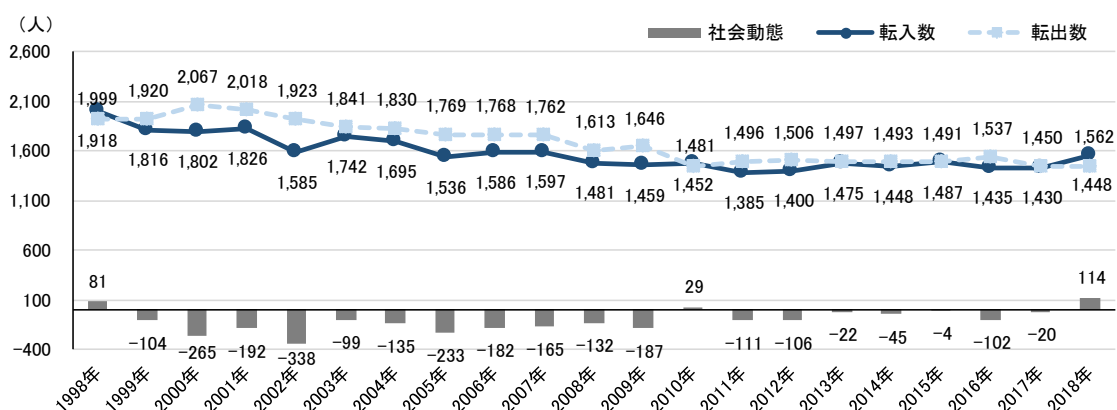


出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）」2008 年～2012 年

⑤ 社会動態

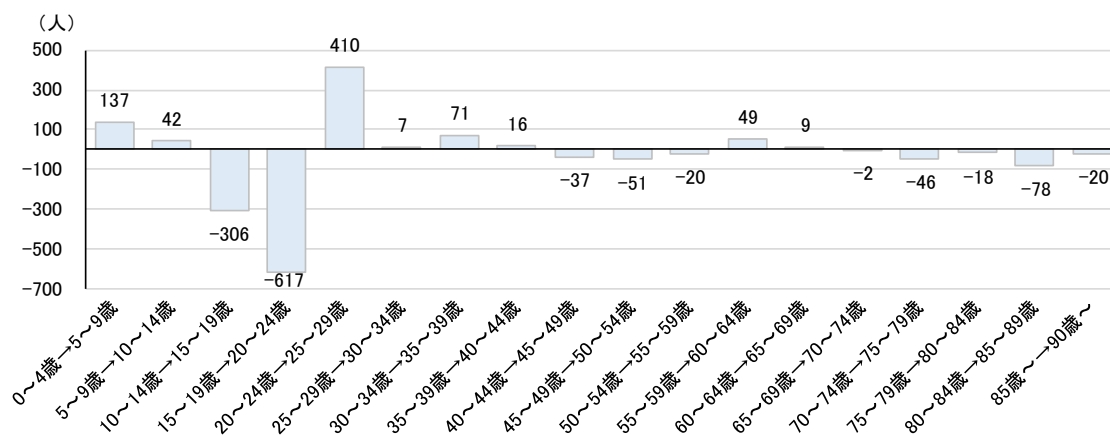
長年、転出超過が続いていましたが、近年は転入と転出がほぼ均衡し、2018年にはわずかに転入が上回り、社会増となっています。年齢別の移動をみると、10代後半から20代前半にかけて大きく転出超過となっており、進学や就職で市外に出る若者が多いことがわかります。逆に20代後半では転入超過となり、就職や結婚のタイミングで転入する世代といえます。

社会動態の推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

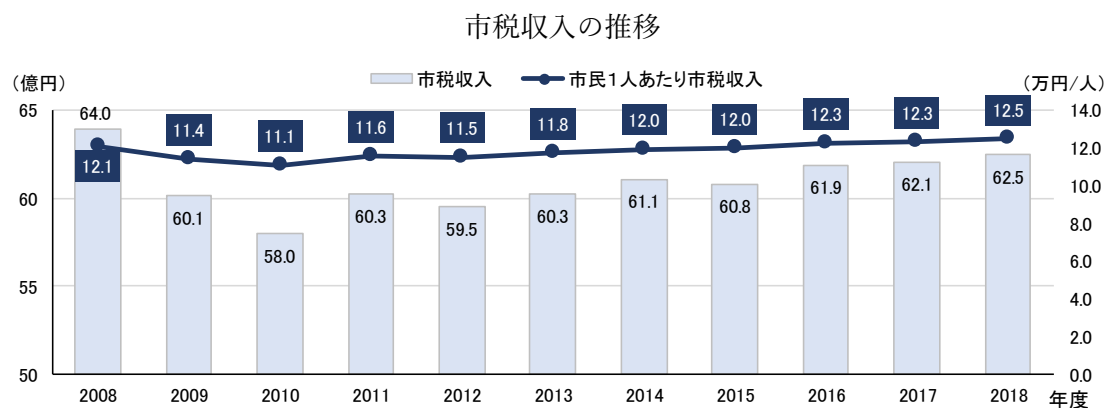
年齢階級別純移動数 (2010年～2015年)



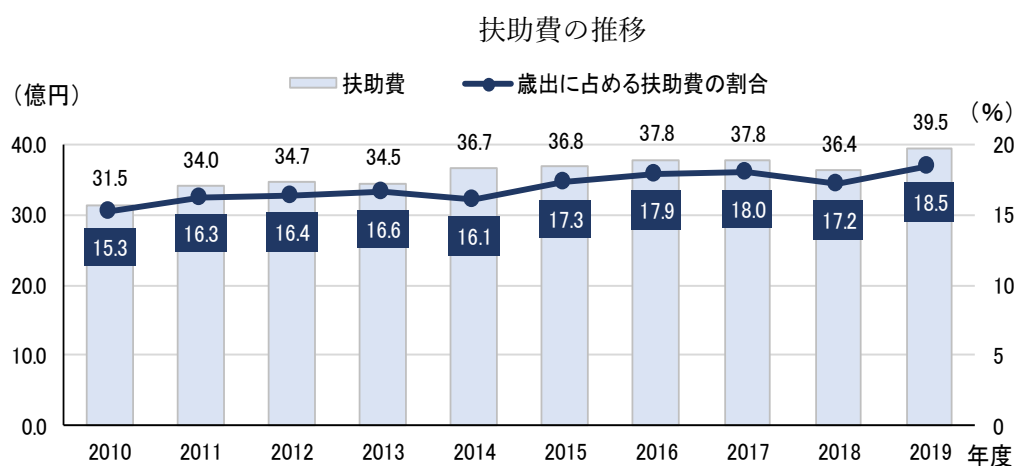
出典：内閣府「REASAS」2010年～2015年データを活用

⑥ 財政状況

市税収入はわずかに増加傾向にありますが、リーマンショック前の水準に戻っていません。医療や介護が必要な高齢者が増えるほか、子育て支援の充実により扶助費（社会保障費）が増え続けています。



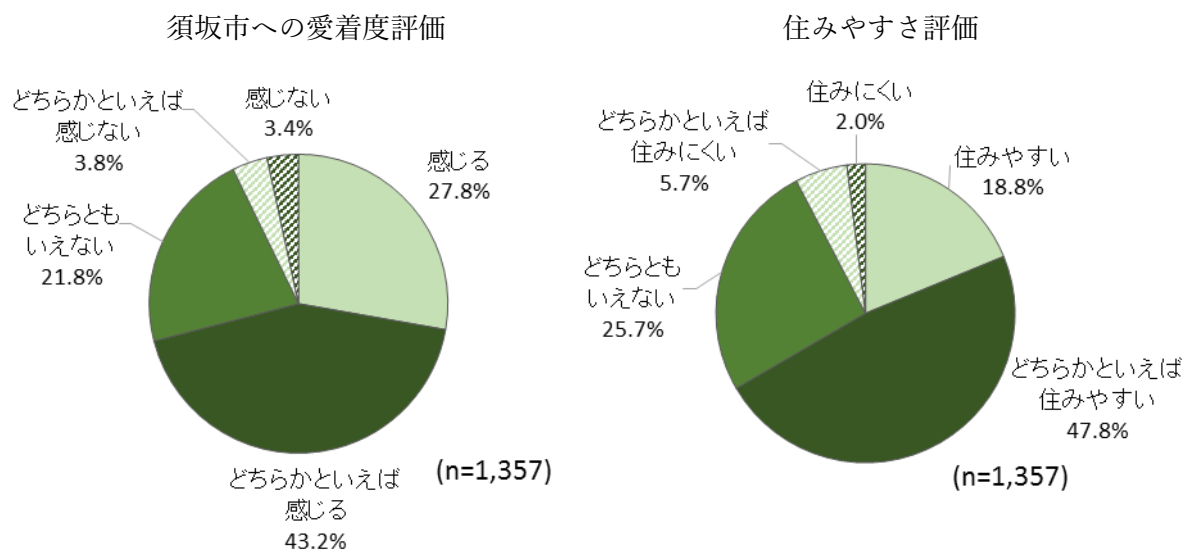
出典：須坂市 財政課



出典：須坂市 財政課

⑦ 市民意識指標

市民意識調査の結果をみると、市民の71.0%が「須坂市に愛着を感じる」としています。
また、須坂市を「住みやすいまち」と評価する人は66.6%となっています。



出典：「市民総合意識調査」2019年7月

2. 2030 年への展望～本市を取り巻く環境や未来に起こりうる変化のシナリオ

<これまで>

- 伝統や自然に恵まれた豊かな暮らしと、中核市である長野市に隣接した便利な暮らしを両立できる都市として発展してきました。
- 果樹王国・須坂や蔵のまちの伝統を活かしたまちづくりを行ってきました。
- 地域のつながりが強く保たれ、一人ひとりの健康づくりの意識や活発な地域活動が健康長寿の伝統を支えてきました。その結果、元気な高齢者が数多く活躍しています。

<現在の課題>

- 少子高齢化による人口減少が着実に進んでいます。出生率は県内で低い水準となっているほか、進学・就職をきっかけに市外へ流出する若者が少なくありません。
- “移住支援信州須坂モデル”施策により一定の移住の成果がみられるものの、全国から人が集まるような強い産業や観光資源が少なく、市街地の一部は空洞化が進んでいます。
- 果樹栽培が好調ですが、農業者の高齢化は確実に進みつつあり今後も規模を維持・拡大できるかが課題となっています。
- 少子高齢化を背景に、税収の伸びが期待できない一方、医療等にかかる社会保障費は増加し続け、須坂市の財政は経常収支比率の高さが示すように硬直化が進んでいます。
- 限りある行政資源を集中的かつ効率的に投入し、市民の力も借りながら、いかに持続的な行政運営を行っていくかが問われています。

<2030 年までに起こりうる変化とチャンス>

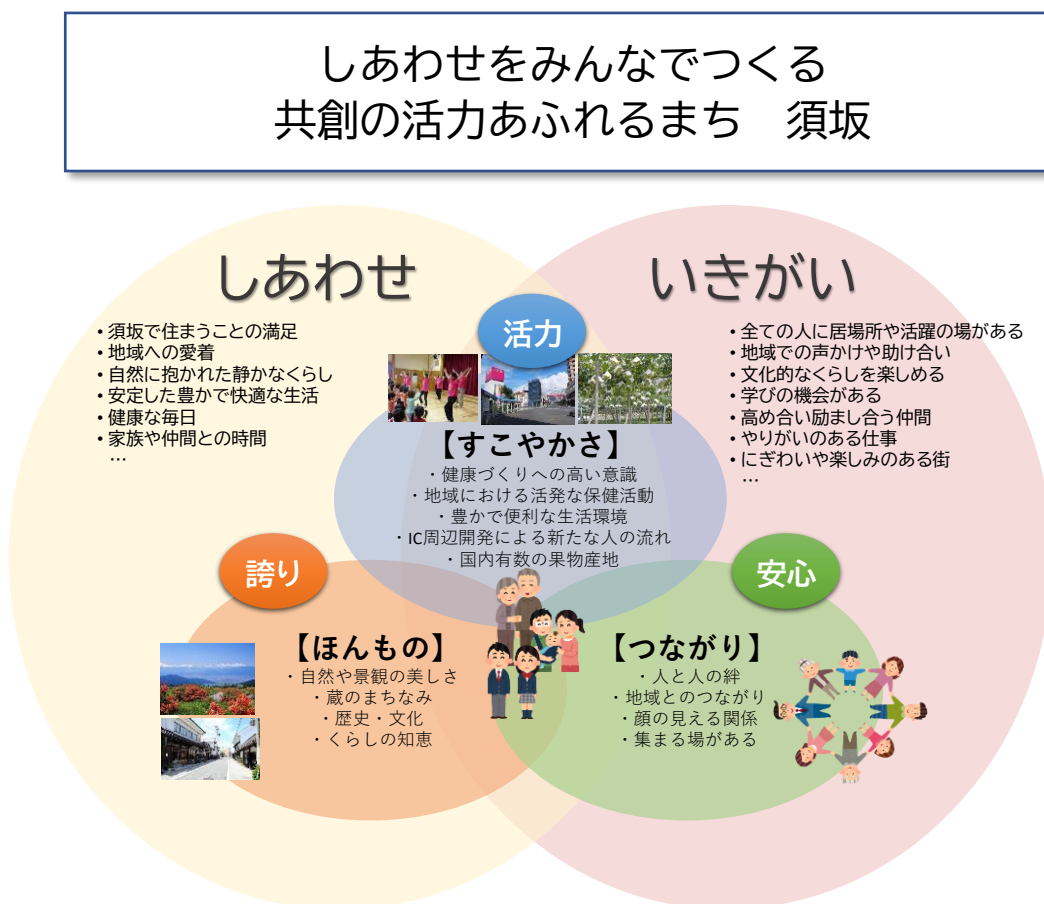
- 時代は世界規模で大きく変化していきます。経済格差や環境問題などの解決に向けて SDGs が掲げられ、世界が一丸となって 2030 年までに取り組んでいくことが求められています。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で全世界が混乱に陥りました。これを機に経済・文化活動や価値観が世界規模で見直され、仕事や娯楽など生活スタイルの変化が加速すると考えられます。
- 国内では、少子高齢化がさらに進み、須坂市も人口の少ない地方都市として、どのようにまちを維持していくかが大命題となります。
- 一方で第 4 次産業革命が進み、各分野のスマート化により高齢化や人手不足を解決することが期待されます。
- 予定されているインター周辺開発により新しい人の流れが生まれ、まち全体のにぎわいや産業にどう波及させるかが重要となります。

- ICT 化の進展により、人々の生活意識や働き方が大きく変わるため、地方暮らしを選択する人が増えると見込まれ、引き続き移住促進への取組が求められます。
- 少子化が進む一方、子育てや教育分野を取り巻くニーズも多様化・複雑化するなか、子育てしやすい環境や豊かな教育機会があることが、若い世代に選ばれるまちの必要条件となります。
- 女性が能力を発揮して輝ける社会や、子育てしながら女性が活躍できる社会であることが必要不可欠となります。
- あらゆる分野でダイバーシティが進み、多様な人材の活用が重要になります。
- 本格的な人生 100 年時代を迎え、須坂の健康長寿の伝統やノウハウの蓄積は福祉分野だけでなく、ヘルステック（ヘルスケア×テクノロジー）など新産業分野にも応用できる強みとなります。

3. 将来像

将来像は10年後の2030年に向けて本市が目指す、まちづくりのコンセプトを表すものです。より良いまちづくりに行政・市民・民間企業・関係団体が一丸となって取り組むための合い言葉（スローガン）という側面もあります。

そのため、須坂市の強みや特徴、克服すべき課題などを庁内で検討するとともに、市民意識調査等による市民の意見や総合計画審議会での議論を総合的に踏まえ、以下の将来像を設定しました。



●将来像に込めた思い

- 須坂市が目指す究極の目標は、市民一人ひとりのしあわせです。
- しあわせとを感じる要素は人それぞれですが、地域の宝である「ほんものの誇り」、「つながりの安心」、「すこやかさの活力」が一人ひとりのしあわせやいきがいを形成し、まちの活力を生み出す源泉となっています。

「ほんものの誇り」・・・美しい自然や歴史・文化、そのなかで育まれてきた地に足の着いた豊かな暮らしが、市民の誇りや心のよりどころとなっています。

「つながりの安心」・・・人は独りではしあわせにはなれず、誰もが支え合いのなかで生きています。須坂市は地域のつながりを大切にし、一人ひとりに居場所や活躍の場があり、誰ひとり孤独にさせないまちをめざします。

「すこやかさの活力」・・・健康づくりを中心とした市民活動の蓄積や農業をはじめとする産業がバランスよくあることが、まちの活力につながっています。こうした営みは市民・民間企業・関係団体の努力や切磋琢磨から生まれ、その共創がまちの原動力となっています。

4. まちづくりの基本的な視点

将来像に掲げたまちの実現に向けて、第六次総合計画を進めていくうえでの基本的な考え方を示します。

(1) チャレンジ指針（まちづくりの基本指針）

計画の愛称を「須坂みらいチャレンジ 2030」としたように、本計画では人口減少という大きな社会課題を筆頭に、さまざまな時代変化に臨機応変に対応していく前向きなチャレンジが必要になります。そこで、すべての政策分野に共通する取組方針を「チャレンジ指針」として定めます。

■チャレンジ指針1：『進化』

第4次産業革命と言われる技術革新が日々進んでいます。ICT化やAIといった新しい技術を行政運営、産業、暮らしの各方面に取り入れ、進化に柔軟に対応します。

■チャレンジ指針2：『継承』

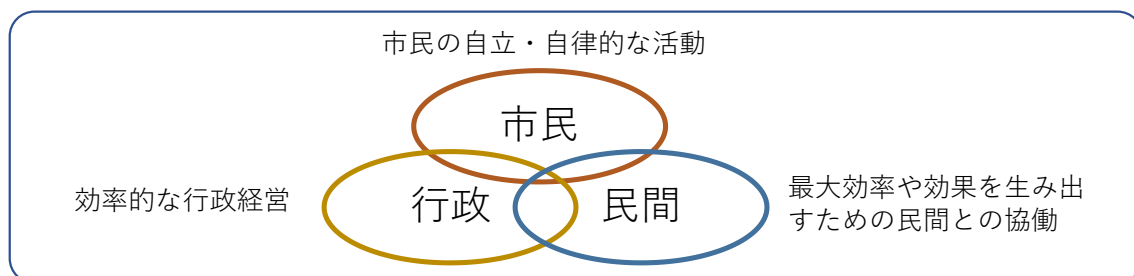
ICT化やグローバル化の進展は、地域の個性を希薄にするおそれがありますが、選ばれる地域になるためには、他にない強みや魅力を守り、磨く必要があります。守るべき地域の宝を次代に継承していくための仕組みと担い手をつくります。

■チャレンジ指針3：『学びと行動』

一人ひとりが自分事として地域の課題に向きあい、学びあい、地域や周囲の人々のために行動をおこすよう促します。

(2) これからの地域経営と共創のまちづくり

少子高齢化による人口減少や先行きが不透明な景気動向を背景に、これまで以上に厳しい財政状況を迎えることが予想されます。今後の地域経営は行政、市民、民間（企業や各種団体）が知恵を出し合い、それぞれの立場で役割と責任を全うすることが求められます。第六次総合計画は行政計画であるとともに、3者が切磋琢磨して「共創（Collaboration）」のまちづくりを行うための共通の指針となるものです。



(3) 国際目標「SDG s (エス・ディ・ジーズ)」との関連

「SDG s (エス・ディ・ジーズ)」は、2015 年の国連サミットで採択された 2016 年から 2030 年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための 17 の目標と 169 のターゲットから構成されています。「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、発展途上国だけでなく、先進国を含む国際社会全体の目標として、経済・社会・環境等の諸問題を総合的に解決することを目指したものです。

わが国では、市町村が地域の諸問題の解決に SDGs を活用することにより、地方創生を推進するよう推奨しており、本市の総合計画においても、SDGs の 17 の目標を紐付け、国際的な目標の方向性に対応を意識しながら、施策を進めていきます。



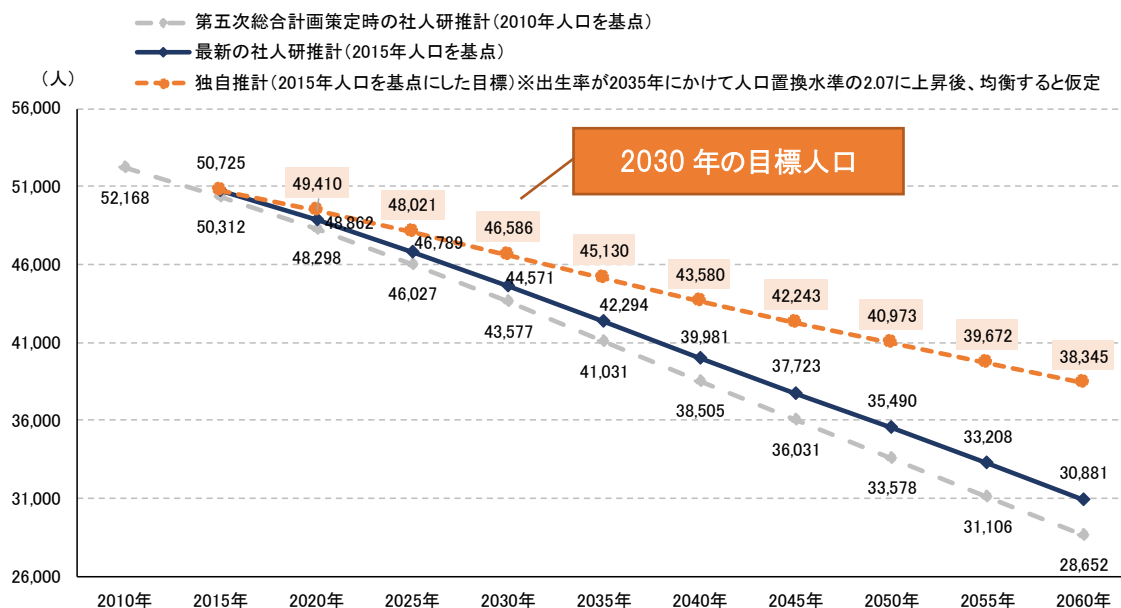
5. 将来目標人口

2030 年の目標人口 46,500 人以上

最新の国立社会保障・人口問題研究所による須坂市の人口推計（2015 年の国勢調査人口を基点とする推計）と独自推計を行いました。独自推計は、合計特殊出生率が 2035 年にかけて人口置換水準の 2.07 に上昇した後は均衡して推移、純移動率は 2015 年の後は均衡する（±ゼロで推移）と仮定してシミュレーションを行ったものです。

最新の社人研推計による人口推計では、5 年前の社人研推計よりもやや減少の度合いが緩やかとなり、2030 年時点で約 1,000 人多い 44,571 人と推計されています。緩やかになったとはいえ、2015 年からの 15 年間で 6,000 人以上減少すると見込まれています。

独自推計によるシミュレーションでは、2030 年に 46,586 人と推計され、社人研推計よりも 2,000 人ほど上回る水準です。



出典：国立社会保障・人口問題研究所 「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

（注）

- ・内閣府が配布している「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート」を使用して推計。年齢不詳の人口を含んでいるため、社人研が公表している結果表の推計人口（年齢不詳人口を含んでいない）とわずかに合致しない。
- ・合計特殊出生率：一人の女性が出産可能とされる 15 歳から 49 歳までに産む子供の数の平均
- ・人口置換水準：人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと
- ・純移動率：5 年間の純移動数（転入超過数）を人口で割った値（性・年齢層別）

6. 重点戦略（地方創生施策）

⇒総合戦略の内容（戦略の柱の構成）・統合方法は今後検討

重点戦略① 須坂市に仕事をつくり安心して働けるようにする

重点戦略② 須坂市への新しい人の流れを創る

重点戦略③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える

重点戦略④ 安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

7. 基本目標（分野別総合政策）

将来像を実現するため、政策分野別に 2030 年までに目指すまちの姿を基本目標として定めます。

政策分野	基本目標（目指すまちの姿）	該当する施策
人権・共生・文化	基本目標① 多様性を認めあい、誰もが活躍できるまち ➤ 性別・国籍・障がいの有無などの違いを超えて、互いに多様性を認め合い、誰もが自分らしく輝ける活躍の場を持てる真の共生社会を目指します ➤ SDGs の基本理念「誰一人取り残さない」を本市でも重点的に目指します	地域共生社会／男女共同参画・女性活躍／障がい者・生活困窮者支援／多文化共生／生涯学習
子育て・教育	基本目標② 子どもの個性と力がのびのび育つまち ➤ 安心して出産・子育てができる地域の子育て力の強化やワンストップの子育て支援により子育て世代に選ばれるまちを目指します ➤ ICT・AI 時代に活躍できる次世代人材を育む特色ある教育を目指します	婚活支援／子育て世代の移住促進／切れ目のない子育て支援／母子保健／特色ある教育／発達支援／食育
健康・高齢者福祉	基本目標③ 健康で健やかに暮らせるまち ➤ 市民主導の健康づくり活動を継続し、人生 100 年時代にふさわしい先進モデルの確立を目指します ➤ 高齢になっても安心して地域で過ごせる支え合いの地域包括ケア体制を目指します	健康長寿／介護予防／地域医療／地域包括ケアシステム
安心・環境・生活基盤	基本目標④ 安心・便利な生活と美しい自然環境がともにあるまち ➤ 台風被害の教訓を活かし、気候変動の時代に向けて災害に強いまちを目指します ➤ 快適で利便性の高い都市生活と、豊かな自然に囲まれた田舎暮らしを高度に両立させたまちを目指します	自然環境・景観保全／防災・防犯／公共交通／土地利用／インフラ整備／住環境／インター周辺開発
産業・雇用・移住定住	基本目標⑤ 活力と賑わいのある自立したまち ➤ 本市の強みである農業や健康づくりを軸に、商工業・サービス業との連携を進めるなど、既存産業の	産業振興（農林業・商工業・観光・サービス産業）／地産外商／新産業創出／企業誘致／起業支援／U ター

政策分野	基本目標（目指すまちの姿）	該当する施策
	高付加価値化や新産業を目指します ➤ 若者に選ばれる雇用機会が豊富にあり、起業にチャレンジしやすいまちを目指します	ン・移住促進／須坂 JAPAN
行財政・協働	基本目標⑥ 市民とともにつくる持続可能性のあるまち ➤ ICT 化を進めるとともに、民間活力を活かしたスピード感のある効率的な行政運営を目指します ➤ 対話や信頼関係に基づき、住民や自治組織など多様な主体が参画するまちづくりを目指します	広報広聴／広域連携／自治活動／市民参加

8. 土地利用構想

※政策推進課とまちづくり課で調整（都市マスタープランとの整合）

9. 国土強靱化にかかる基本構想

※政策推進課と総務課及び関連各課で調整

第 3 部 前期基本計画

1. 体系図
2. 施策の構成と見方
3. 施策の展開